


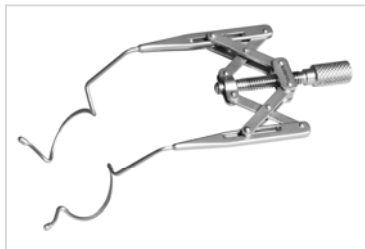
K1-5697, K1-5691, K1-5695 – ダブル-X 平行開瞼器
K1-5698 (同・ソリッドブレード)

ASCRS/2014 で発表したこれらの開瞼器は、現在大変好評を博しています。特許を取得した特別な構造によって、既存の開瞼器を上回る次の2つの大きな利点ができました。1)ブレードを平行に牽引することで、眼球に余分な圧力をかけずに優れた眼瞼牽引が可能になりました。これはフェムトセカンド

レーザーのドッキングや、白内障、屈折矯正、緑内障及び角膜移植術等に最適です。2)この構造は開瞼すると同時に術野から横方向へ外れるため、障害物なく術野へアクセスできます。

Key Features:

- ① 独自の“ダブル-X”機構により、眼瞼に沿って均一の張力がかかるようブレードが平行に動きます。
- ② 眼瞼が牽引されると、開閉機構部が術野へのアクセスの妨げにならないいところへ動きます。
- ③ ボールチップ状の先端は、患者の眼瞼組織への過剰な不快感を取り除きます。

広い要望に応えるべく、シュー氏開瞼器 大 (17mm)※、シュー氏開瞼器 小 (13mm)、K-ワイヤーブレード (15mm)、V-ワイヤーブレード (15mm) そしてソリッドブレード (15mm)の、以上5種類の開瞼器を開発しました。この構造はカティーナ唯一のもので、ぜひとも多くの医師、特に現在レーザーを使用されている先生にご覧いただくことを勧めます。これまでに実際にこのダブル-X開瞼器を使用した先生から非常に好評を得ています。カティーナのウェブサイトもぜひご覧ください。

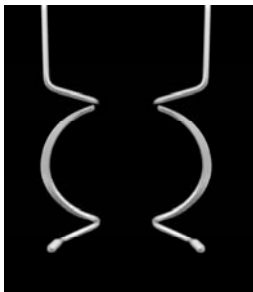
※K1-5696

K1-5697

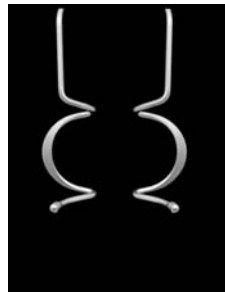
K1-5691

K1-5695

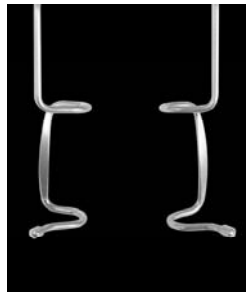
K1-5698



シュー氏フェムト開瞼器 (大)



シュー氏フェムト開瞼器 (小)



ダブル-X 平行開瞼器
K-ワイヤーブレード



ダブル-X 平行開瞼器
V-ワイヤーブレード



ダブル-X 平行開瞼器
ソリッドブレード

※シュー氏開瞼器 (K1-5696) は、2014年7月の新製品案内でご案内済です。

K1-5685 リーバーマン氏開瞼器、耳側、V-ワイヤー



カティーナはリーバーマン氏開瞼器の種類を増やしています。2010年には耳側からアプローチする術者のため、患者の鼻梁上に何も無い状態にできるよう K-ワイヤーのリーバーマン氏式を加えましたが、眼瞼下でドレープをまとめやすくしたいとのリクエストに応じて、この度このリーバーマン氏式 V-ワイヤーブレードを新たに開発しました。

K3-1880 ルートマン-ゴールディッチ氏 DMEK ディセクター

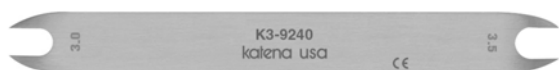


側面
先端部正面

イスラエル、エルサレムのヤコブ・ゴールディッチ氏と、カナダ、トロントのデヴィッド・S・ルートマン氏は、DMEK (Descemet's Membrane Endothelial Keratoplasty/角膜内皮移植術) でのラメラ層剥離のために、この新しいスパーテルをデザインしました。既存のスローン氏マイクロ・ホー2mm幅 (K3-1840) に似ていますが、1mm長・2mm幅の半月形の先端です。45°角の先端でシャフト部は短く、ドナー角膜のエッジを捉えやすく、パンチ内部にまだ組織片があるときに、周辺部を切断するのにも使用できます。



K3-9240 ブラウンシュタイン氏カリパー 3.0/3.5mm



硝子体内注射は黄斑部変性の硝子体腔への薬物治療として標準的な手技として受け入れられてきています。このカリパーはその注射のために、周辺部から 3.0mm もしくは 3.5mm のマーキングが可能です。正確な測定と位置のマーキングの為に鋭い先端をしています。

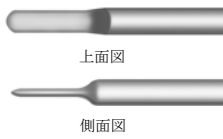
K3-8148 ボレス氏 O-Z マーカー、7.5mm

K3-8152 同 8.5mm



カティーナは 30 年以上に渡り多種ボレス氏 O-Z マーカーをご提供して参りました。現在これらは DALK、DSAEK、DSEK そして DMEK 等の角膜移植術においてよく使用されています。これらのリングの縁はインクを使用せずマーキングをするのに適するよう、非常に細く造られています。鋭利にはなっていません。術者のリクエストに応じてこれからも新しいサイズを加えて参ります。

K3-2442 カティナーナ フェムトスパーテル、鈍



フェムトセカンドレーザーを使用して得られる正確さは、これまでとは比べ物になりません。これまででは術者は創口作成や嚢切開、核分割の作業等に、これほど正確にアクセスできませんでした。この技術は（機器と患者の双方の回転率の視点から）大変高価なため、そのメリットや眼科での使用についてあまり議論にのぼりませんが、レーザーの出現で多くの新しい手術機器が必要になり、2013年にエリック・ドネンフェルド氏と共同で第一切開と刺入のために新しいスパーテルを開発しました。彼のスパーテルは創口の発見と挿入が容易なよう、先端部が鋭利になっています。今回新たなこのスレイドスタイルの先端鈍のスパーテルを加えました。1mm長、平らで鈍の先端を搭載しています。創口作成中の組織内に別の創口面ができるのを危惧する術者の中には、鈍先端を提唱する方もいます。



K3-2460 カティナーナ フェムトスパーテル、両頭



この両頭の器具は、一方に上述のフェムトスパーテル（K3-2442）を、もう一方に鈍の角膜切開用の先端を搭載しています。フェムトセカンドレーザーの利点の一つとして、創口作成の際に、様々な構造を広い範囲で検討できるという事が挙げられます。創口のサイズは引き続き縮小する傾向ですが、実際のところ、これらの切開口は閉塞が難しいことがあります。これに対応して、術者は創口をカスタマイズ出来るようになりました。この器具は刺入同様、最初の切開（その切開口構造の如何に関わらず）も同一の器具で開くために設計されました。鈍（スレイドスタイル）スパーテル 1mm（若しくはそれ以下）サイドポート切開口と、2mm幅の角膜切開用形状（エイパート氏スタイル）でメインの切開口部を明確に解放する補助になります。

